

事務事業	11014	児童保育所運営事業	担当課	子育て支援課	担当係	保育係
計画期 画期 体計 系画	施策	05	子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予 算 科 目	会 計 款 項 目	1 3 4 3
	取り組み方針	130 子育てしやすい保育環境を整える				保育係 民生費 児童福祉施設費 学童保育費
	法令根拠条例等	志免町学童保育所運営要綱		個別計画		
	実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S63 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度~ 年度				

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
両親共働き等の理由により放課後帰宅しても保護者が不在である家庭の児童で、小学校に在籍する1年生から6年生までの児童を学校の余裕教室または専用施設を利用して預かる。月曜日から金曜日までは放課後から午後6時まで、土曜日・長期休暇期間中は午前8時から午後6時まで預かる。平日は19時までの延長保育を実施。事業運営については平成30年度からシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社に委託している。		
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		
委託料支払、入退所決定事務、運営支援等		
		学童保育委託料 71,313 千円 上下水道料 90 千円 消耗品費 19 千円 千円 千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) 放課後児童の預かり
② 対象(誰、何を対象にしているのか)	両親共働き等の理由で放課後帰宅しても保護者が不在である家庭の小学1年~6年までの児童とその保護者
③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか)	・放課後安全に遊び過ごせる ・子どもを預けることで安心して働ける

④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 施設開放日数	日	290	288	290 (見込)	
イ				(見込)	
ウ				(見込)	
⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 入所定員数(4学童)	人	420	420	420 (見込)	
イ 申込数	人	437	498	545 (見込)	
ウ				(見込)	
⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 入所率(入所者/定員数)	%	目標	100.0	100.0	100.0
		実績	100.7	112.8	
イ 待機児童数	人	目標	0	0	0
		実績	14	24	
ウ		目標			
		実績			
エ		目標			
		実績			
オ		目標			
		実績			

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)
	経費	国・県支出金、地方債等	24,422	24,851	27,579	28,079	28,079	28,079
		受益者負担等		21,978	25,908	23,238	23,238	23,238
		一般財源	4,635	24,745	17,934	22,425	22,937	22,937
		合計(A)	29,057	71,574	71,421	73,742	74,254	74,254
		(内臨時・嘱託職員人件費)						
		正職員人件費[按分](B)	11,957	4,858	1,528	4,321		
	トータルコスト(A)+(B)	41,014	76,432	72,949	78,063	74,254	74,254	

事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか？いつ頃どんな経緯で開始されましたか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか？	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか？(誰からの意見か明記)
「子育てをしながら働き続けたい」という希望や、放課後の「かぎっこ対策」など、保護者からの要望により学童保育所設置に向けた運動がスタートし、昭和63年度より事業開始した。	厚労省は、平成25年11月に定員は40人以下が望ましく、これまでおおむね10歳までとしていた対象年齢を小学校6年生までに引き上げると新しい基準を示した。	保護者から、夏休みだけの保育希望や、20時までの延長保育等の要望がある。また、現在は実施していない長期休業日の延長保育の要望もある。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	平成30年度の利用申込みが前年度を大きく上回り、すべての学童で定員以上の利用と待機児童が発生した。運営をシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社に移行したことで、人材の確保がこれまでより比較的スムーズであるため、支援員の柔軟な配置が可能となった。重いアレルギーをもった児童の受け入れが出来ないなどの事案も発生しているため、支援員に対する研修等の実施した。これについては施設面での配慮が必要のため改善されている状況ではない。放課後児童クラブの拡充や他の事業展開など、今後児童の居場所の在り方等包括的に検討していく必要がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか？※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→) ② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？(事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか？) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	放課後、保護者が留守にしている家庭の児童に安全で安心して生活の場を提供することができる。 児童福祉法第6条の3第2項の規定に基づき、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る必要がある。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか？ <input type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→) ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	指導員の学習の機会や研修の機会を増やし、学童保育の場を児童にとって楽しく有意義な場となるようにしていきたい。 利用対象者が小学校6年生までに広がったことにより、4年生以上の児童に待機児童が生じているため、解消できるようにする。また、低学年の児童のニーズも増加傾向にあり、学童によっては低学年でも待機が出ているため対策を講じる必要がある。 放課後留守家庭の児童が安全に安心して生活する場がなく、保護者が安心して働くことができない。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか？(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	放課後児童クラブの運営自体をシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社に委託しているためこれ以上のコスト削減はできない。

(2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

平成30年度より運営をシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社に委託することになった。今後は新たな運営事業者と連携し、支援員の確保や保護者対応の充実などを図り、より良い放課後児童健全育成事業を展開していきたい。また、受け入れ人数については、31年度中央学童と西学童で低学年児童に待機児童が発生した。また東学童についても定員以上の受け入れを行い、非常に保育現場が混雑しているため、今後の右肩上がりのニーズを踏まえたうえで全校区を視野に施設の拡張・拡大が急務である。

3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	平成31年度の利用申込みが前年度を大きく上回り、4月現在、すべての学童で定員以上の利用と待機児童が発生した。中央学童、西学童では3年生の児童にも一部待機が発生し、今後もニーズが見込まれるため、施設面の拡充や、それに伴う人員の確保などが喫緊の課題である。また、東学童と南学童も施設が非常に手狭であるため、より安全安心な環境を提供する必要がある。